

地域、そして山を守るために
林業を復活させる活動を今やらなければ
ダメだという強い危機感があった

動画
de 広報

かねわフォンと
町ホームページ
でも配信中！



管理放棄された森林を減らす

【静岡県の森林面積】

①静岡市	107,354ヘクタール
②浜松市	102,741ヘクタール
③川根本町	46,598ヘクタール
④伊豆市	30,031ヘクタール
⑤富士宮市	25,512ヘクタール
...	
③④清水町	88ヘクタール
③⑤吉田町	30ヘクタール

も静岡県土の
約64%が森林

(出典) 平成26年度静岡県森林・林業統計要覧

森林面積が県内3位
森林率93・81%は県内1位

森林面積4万6598ヘクタールを有する川根本町は県内でも静岡市、浜松市に次いで森林面積が多い自治体。実に町の総面積の約94%が森林です。

町内ではスギやヒノキなどの人工林の荒廃が進んでいる状況にあり、制度的支援を受けた森林組合などの事業体が間伐を行っています。依然として放置された森林も多く、間伐を行った森林内にも間伐材がそのまま残されている所も多くあります。また、林内に限らず集落の周辺や茶園近くに植林された木々が成長、太陽光を遮り日常生活や茶業などに影響を及ぼしています。これは川根本町に限らず全国の中山

過疎・高齢化の進行、林業従事者の減少、管理放棄森林の増加
そして、鳥獣被害―。森づくりの課題は尽きない。
でも、そんな逆境の中でも軽トラとチェーンソー、
ふるさとを愛する気持ちさえあればできることがある。
森林再生と地域経済が活性化する新たな仕組みとは…。



間地域においても、過疎化や高齢化、林業の衰退などにより維持管理の担い手が不足し、手入れが行き届かない森林が増え、問題となっています。

そこで、森林や林業に関心を持ち、森づくりに積極的に関わる人を増やし、伐採された木材を有効に活用するための仕組みを作ろうと「木の駅かわね」実行委員会を設立しました。

「木の駅かわね」の設立

11月8日、桑野山貯木場に40台の軽トラと木材の搬出コスト削減の一角を担うフルトレーラー1台が集まり、「木の駅かわね」オープニングセレモニーが開催されました。木の駅とは、「山に切り捨てられている材木（林地残材）」を「木の駅」に出荷して、山をきれいにし、町が元気になって、地球温暖化ストップに少し役に立って、そして自分にはご褒美の晩酌を…をコンセプトとして展開する全国的な取り組みです。県内では初の取り組みとなり、木の駅かわね実行委員会（杉山嘉英委員長）が主体となり愛知県東栄町の「とうえい木の駅プロジェクト」などをモデルに川根本町版としてスタートさせました。森林再生と地域経済が活性化する新たな仕組みである木の駅プロジェクトは、全国で50を超える地域で実施されていて、「山がきれいになり、地域に元気が出た」と評判の事業です。